

平成27年度塩尻市議会9月定例会

産業建設委員会会議録

○日時 平成27年9月25日（金） 本会議暫時休憩中

○場所 第一委員会室

○審査事項

議案第32号 平成27年度塩尻市一般会計補正予算（第4号）中 歳出5款労働費

○出席委員

委員長	金子 勝寿 君	副委員長	村田 茂之 君
委員	中野 重則 君	委員	牧野 直樹 君
委員	古畑 秀夫 君	委員	中村 努 君

○欠席委員

なし

○説明のため出席した理事者・職員

省略

○議会事務局職員

議事調査係長 上村 英文 君

午前11時25分 開会

○委員長 それでは、全員出席のようですので、ただいまから9月定例会産業建設委員会を開会いたします。本日の委員会は、全員出席しております。この際申し上げます。審査に入る前に挨拶があればお願いいたします。

産業振興事業部長挨拶

○産業振興事業部長 理事者にかわって挨拶させていただきます。去る9月1日に、厚労省事業でございますが、実践型地域雇用創造事業の当市が県下初で採択を受けました。それに伴います補正予算第4号を上程させていただきましたので、御審査をいただきお認めいただきますよう、よろしくお願いいたします。以上です。

○委員長 それでは、審査を行います。なお、発言に際しては、議事の円滑な進行のため、委員長の指名を受けた者のみの発言とします。議事進行への御協力をお願いいたします。

議案第32号 平成27年度塩尻市一般会計補正予算（第4号）中 歳出5款労働費

○委員長 議案第32号平成27年度塩尻市一般会計補正予算（第4号）、歳出5款労働費を議題といたします。

説明を求めます。

○産業政策課長 それでは、お手元の議案第32号一般会計補正予算（第4号）の資料の10ページ、11ページをごらんください。5款労働費1項労働諸費1目労政費の白丸であります。実践型地域雇用創造事業1、987万4,000円を増額補正させていただくものでございます。その下の黒ポツの雇用創造協議会負担金1、987万4,000円でございますが、国が、雇用機会が不足しています地域での自発的な雇用創造の取り組みを支援する委託事業になっておりまして、塩尻地域の人材不足や雇用機会の減少等に伴う地域経済の縮小等の課題を解決するために、商工会議所や観光協会、長野経済研究所など9団体で設置いたしました塩尻市雇用創造協議会が契約しましたコンテスト方式によりますものでございますが、9月1日に採択されたことに伴いまして、今回、補正をさせていただくものでございます。厚生労働省の委託事業、10分の10の財源でございます。

この事業でございますが、まち・ひと・しごとの創生に関する地方版総合戦略の中に位置づけられておりまして、地域の地方創生の取り組みと一貫性を持って進めることとなっておりますので、第五次総合計画の基本戦略Bの住みよい持続可能な地域の創造の産業振興と周辺の観光の創出に根ざした事業となっております。

負担金、塩尻市雇用創造協議会負担金となっておりますけれども、主な内容でございますが、素地といたしまして基本経費で、これは858万7,000円。後ほど説明させていただきますが、事業推進委員3名分の人件費が385万円あります。その他、事業素案で備品のリース代の経費174万円余、各種セミナーやホームページの情報発信などの事業費が298万円余となっております。もう1点、実践支援に係る経費といたしまして981万5,000円でございます。これは実践支援員4名分の人件費517万6,000円。そのほかに、実践事業の運営費用あるいは車両のリース代、ソフトウェアの開発のアドバイザー経費などの453万9,000円が主な経費となっております。

先日の産業建設委員会協議会におきまして、その概要を報告させていただきました。本日、委員長の発案をいただきまして資料を事前に配付させていただいてございますので、御説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、資料、実践型地域雇用創造事業につきましてお開きください。まず1ページ。先日、協議会のほうで御説明をさせていただきました9月1日付の採択ということでございまして、事業スキームといたしまして、真ん中の地域雇用創造協議会の提案によります委託事業ということでございまして、5月20日に地域雇用創造協議会が設置されております。実施期間につきましては、平成27年12月1日から平成30年3月までの3年度期間でございますが、実質2年4カ月の事業となっております。この辺は、先日御説明をさせていただきました。

2ページ目でございます。今回の事業でございますが、塩尻市雇用創造「結（ゆい）」プロジェクトということに命名をさせていただきました。塩尻でございますけれども、御存じのように交通の結節点からですね、産業・情報・観光・文化の結節点へ結んで事業を展開してまいりたいということでございまして、そういった名前を命名させていただきました。その中の重点分野といたしまして、観光関連産業分野とICTの関連産業分野の2点をですね、重点分野といたしまして提案をさせていただいたものでございます。その下段でございますように、理想の姿といたしまして、観光関連産業分野につきましては、市内の魅力ある資源が商品化されて、国内外に積極的に発信してまいりたいと。それにつきましては、キラーコンテンツであります奈良井宿から市内へ誘導を目指すツアールートの開発。したがって、通過型観光から滞在型観光への転換がなされるということでございま

す。ICT関連産業分野につきましてでございますけれども、今ICTはですね、受託開発がメインの事業でございます。それをソリューション型の、提案型の事業にしてみたいということで開発計画を立ててまいります。同時に、製造業、他産業へのICT化の伸展を図ってみたいということで課題を解決してみたいと。今、人材が不足しているというようなこともございますので、あわせて人材を育ててみたいということで考えております。

次、3ページでございます。実施体制でございます。塩尻市雇用創造協議会でございますが、会長が篠原清満でございます。以下、商工会議所、県、金融機関、観光協会の9名で組織をされております。先ほど御説明いたしました経費の関係でございますけれども、まず協議会の事務局を、事業推進員と申しますが、新規で3名の雇用を行う予定でございます。職場配置につきましては、産業政策課内へ置くということで今現在検討しております。この協議会の事務局につきましては、右側でございますI番、II番、III番の雇用拡大メニュー、事業主向けのセミナーが最初になります。もう1点は、求職者向けのセミナーをやっていきます人材育成メニュー、もう1点が、その事業主と求職者をですね、マッチングさせるための就業促進メニューということで、就職ミニ面接会等を開催するわけでございますが、このI番、II番、III番を担っていただくということで考えております。IV番目の雇用創出実践メニューでございますが、それぞれ、先ほどの課題解決のために、観光コンテンツ創出事業担当ということで実践支援員をチームリーダー1名とサブが1名。それから、ソフトウェアの開発事業でございます。同じく実践支援員をチームリーダー1名、サブを2名でございます。マーケティングの担当につきましてはICTとの関連もございますので、0.5ということで、それぞれ2.5、3.5ということで予定しております。観光コンテンツの実践支援につきましては、えんぱーく4階でございます塩尻市観光協会の中に設置してみたいと。また、ICTにつきましては、SIPのですね、中のスペースを連続して設置してみたいと考えております。

4ページからそれぞれのメニューでございます。時間もございません、簡単に御説明させていただきますけれども、まず雇用拡大メニュー、事業主向けのセミナーでございますが、大きく5本のセミナーを予定しております。真ん中の分野、観光、ICT、観光・ICTでございますが、そういった形で予定しております。年度はですね、27、28、29でございますので、それぞれ年度で分けてやってみたいと。27年度は4カ月間しかございませんので、②番と③番のセミナーを開催してみたいと。対象者につきましては、それぞれ市内の小売・飲食店、また宿泊事業者等々、また観光、旅行代理店を対象として実施してみたいと思っております。それから、ICTにつきましては、市内の各種企業、また創業を予定している皆さんを対象としてみたいと思っております。

次、5ページでございます。人材育成メニューでございますが、求職者向けセミナーということでございまして、現在、離職をしている方、また就職を希望している方を対象としたセミナーでございます。これも5本のセミナーでございます。それぞれ年度によってですね、セミナーの開催が決まっております。想定就職先につきましては、観光関連産業、あるいはICT企業、また創業を目指している方も対象としてこのセミナーを開催してみたいと考えております。

6ページでございます。III番の就業促進メニューでございますけれども、主に情報発信と先ほど申し上げました就職ミニ面接会を予定しております。情報発信につきましては、協議会専用ホームページをつくりまして情報

発信していくということが主な事業になっておりますし、就職ミニ面接会につきましては、それぞれ雇用拡大メニュー、人材育成メニューを受講した皆さんのマッチングの機会を設定しております、ハローワーク松本ですとか、塩尻地区労務対策協議会、商工会議所と連携してですね、取り組んでまいりたいというふうに考えております。真ん中にございますのは、これは既にやっております秩父市の雇用創造協議会、また酒田市の雇用創造協議会のホームページでございまして、お示しをさせていただいたものでございます。

7ページに移ります。IV番目の雇用創出実践メニューでございまして、地域資源を活用した観光コンテンツの創出事業ということでございまして、先ほど来申し上げておりますように、塩尻市内に地域資源がたくさんございまして、コンテンツ化されていないという中で、なかなか回遊性といいますか、がなくてですね、着地型観光といいますか、滞在型観光になっていないという課題がございまして、それに対するマーケティング調査を行いながらツアープランを開発しまして、地元の観光業者さん、あるいは市外の観光業者さんを通してお客さんをより呼んでまいりたいというようなことのコンテ作成がメインの事業を行います。

8ページの地域密着型ソフトウェア開発でございまして、こちらでもですね、やはり受託開発が多いので、なかなか脱却ができていないということの中で、地域でのニーズを把握をさせていただきまして、地域に密着したソフトウェアの地産地消といいますか、そういったことを目指してやっていきたいということでございまして、また、そこに携わる人材の開発、ソフトウェアの開発をいたしまして、市内企業に就業をしていただく、あるいは、買い物をしていただくというようなことを目指してまいりたいということで考えておる事業でございまして。

最後の9ページでございまして、この期間につきましては、平成27年12月1日から平成30年3月末までの2年4カ月ということでございまして、委託事業でございまして、今回の補正予算1,987万4,000円でございますが、平成28、29それぞれ既に経費が決まっております。総額1億7,000万円余でございます。この3年間のですね、KPIといいますか、アウトカムは136名ということで、これも成果指標ということで既に国のほうへですね、提案させていただいてございまして、これをクリアすべく事業を展開してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

私のほうからの説明は以上になります。御審議のほどよろしく願いいたします。

○委員長 それでは質疑を行います。委員より御質問、御意見ございますか。

○副委員長 2ページ目の観光関連産業分野とICT、まず、これは独立したテーマなんですか。もしくは、ここに、何て言いますか、シナジー効果を狙ったようなプランなんですかという質問です。

○産業政策課長 私どものほうですね、第五次総合計画の中でもお示しをさせていただいてございます課題でございまして、それぞれの担当のほうですね、課題として取り上げております。テーマの観光関連につきましては、今後の観光協会の法人化を含めましてですね、そういった形で課題になってございます。ICTにつきましては、人材不足等々がございまして、そういった意味で、そういった関連の中でですね、この事業に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○副委員長 じゃあ、もう1つお聞きします。これに応募するかどうかというふうなことで、1つの目安を持ちたい。例えば、次のページの協議会事務局、新規雇用3名あります。この事業リーダー1名になった場合に、ちょっと具体的になって恐縮なんですけど、年収的に幾らぐらいになるかっていう試算を教えてください。

○産業政策課長 384万円です。

○副委員長 そうしますとですね、一般的に考えて、今の仕事をうっちゃってもですね、これをやろうという気になりません。どういう基準でその三百数十万ということをやっているのか、根拠を教えてください。

○産業政策課長 実はこれ、国のほうとですね、何回もヒアリング等をやってまいりまして、当然、今おっしゃいますように、月50万円ですとか、最低ラインが違うんじゃないかということで、随分国と折衝してまいりました。ただ、国のほうもですね、国の委託事業でございますので、国のルールと言いますか、全国的な状況を見る中でですね、この辺の金額的なことに大分下げられてしまったという経緯がございます。ただ、私どももですね、確かに優秀な人材を確保するためにはですね、ある程度の経費といいますか、年収を確保していくということとはもう重々承知はしておるわけでございますけども、そういったことございまして、国の委託事業の中でのルールの中で最大限の額しか確保できなかったというのが現実でございます。今後ですね、そういった条件に見合う方を何とか探してですね、採用していくということであちこち情報を張り巡らしながら、また、公募と言いますか、そういったこともですね、視野に入れながら人材の確保に努めてまいりたいと考えております。

○副委員長 ちょっと、いろんなほかの事業とか見ての感想もあるんですけど、ちょっと言葉はよくないですけど、自分たちの勉強を兼ねて、手前たちで汗水流したらどうだいという発想もあるんです。確かに経験分野でないかもしれないんですが、ここをですね、これだけのあれで、とにかく外から人は持ってきましたというだけでですね、必ずインとアウトでギャップが出ますので。それをどう補正するかというような問題もあるし。ある意味、やる気の、例えば庁内公募で、こういうことをやってみたいやつはいないかい、というような人材の確保方法というのは考えられませんか。そうすると、予算との、補助金との関連でうまくいかないのかもしれないけども、本当にこの事業をやるのであれば、それくらいの覚悟を持ってやれる人っていないものなんでしょうか。

○産業政策課長 今の現実のお考えもでございます。ただ、今回ですね、この厚生労働省の事業につきましては、24カ月という期間がございますけども、24カ月過ぎたらそこでもう終わりかという事業ではございません。24カ月後を見据えた中で、その方がですね、市内企業へ就職する、あるいは起業することも考えられますし、それを観光協会ですと法人化のプロパーということで、そっちのほうへ行く道もございます。したがって、今回の24カ月の中でしっかりスキルアップしていただいて、地元でですね、しっかり、何と言いますか、塩尻のためにうんと頑張るんだという、そういう気持ちですね、ある方を何とか採用させていただきたいと思っておりますが、そういった方を人材育成して地元の企業あるいは団体、あらゆるところでですね、その人材を市内企業が引き続きですね、やっていただくと、そういうことが最終的な目標で取り組んでまいりたいと思っておりますので。確かに報酬も少ない。ではありますけども、24カ月間でしっかりスキルアップ、あるいはこの辺の人脈等をつけていただいて、地元へですね、新たな道かもしれませんが、就労していただくというようなことを目標に考えておりますので、そんなところで考えております。

○委員長 ほかにございませんか。

○中村努委員 4ページの雇用拡大メニューになりますけれども、対象者が市内の事業者ということになるかと思いますが、感覚的にこういったことを進んでしっかりやっという市内事業者のニーズというか、それは現状どのように捉えられていますでしょうか。

○産業政策課長 このメニューを見て、セミナーにつきましてですけども、現在では20件ほどですね、経営として考えているところでございます。今、委員の御指摘のですね、ニーズでございますけども、それを今後、実

実践支援員あるいは事業推進員がですね、各企業さんのほうへ伺ってニーズ調査というようなこともさせていただく予定でございます。実際にはですね、やはり今後、ICTも含めてなんですけども、なかなか殻を破れない企業さんとか事業所さんが大分いらっしゃるのかなと思っておりますので、何とかICT化を図っていただくとか、あるいは、観光ルートの開発に携わったりとか、そういったことも一緒に含めて一緒になって考えていただいて観光産業は観光産業をですね、しっかりビジネス化するような形での取り組みを一緒になって、実践指導員も含めてやっていきたいというふうに考えています。したがって、対象者につきまして今後掘り起こしをしてまいりますということ考えております。

○中村努委員 市内のこういった対象となるような事業所を見るとですね、なかなか高齢化であったり、何て言うんですかね、事業を新たに展開していこうというところまでまだ行っていないのかなという実感があるんですけども、この雇用創造協議会のそれぞれのコンテンツの事業者っていうのは、個々の事業者にくっついて支援をしていくという、そこまでやられるのかどうか。

○産業政策課長 個々ですね、事業者、個別企業に対する支援というのは、これは原則できないことになっておりますので。例えば、このセミナーを受けていただいて、旅館なら旅館のホームページをつくりたいとか、そういったようなことですね、要望があれば、そういった企業さんを紹介するですとか、そういったことをさせていただくというのは可能ですが、その1社について一緒に事業展開をするということではできませんので、ある意味、この事業者セミナーにつきましては、発想を変えていただくきっかけをつくっていただくためのセミナーではあるのかなというふうに考えております。

○委員長 よろしいでしょうか。ほかにありませんか。

○古畑秀夫委員 その次のページの5ページの人材育成の関係の、どのような形で人集めと言いますか、求職者の関係、募りながら、人数的にはかなりの数を、136名というようなことのようにですけども、この辺どんなような形で市民に宣伝をやるっていうか、して、人材育成の人たちをどういうふうに集めていくのかというのは、どんなふう考えていますか。

○産業政策課長 このセミナーの関係でありますけども、現在考えておりますのは、基本的にはですね、協議会のホームページを主にやろうかなと思っております。あとですね、広報ですとか、ハローワーク松本と連携いたしまして求職者に対する情報発信というようなものを想定できます。と言いますのは、既に離職された方、現在職を探している方が対象でございます。新規就労者ですとか学生さんはちょっと対象外になっているものですから。そういった方たちをターゲットにしておりますので、そういった形での募集、チラシとかパンフレットは当然つくってはおりますけども、そういった形で考えております。

○委員長 よろしいですか。ほかにありませんか。

○副委員長 応募する側ですね、双方の立場になったときに、本当にこれがいい仕事なのかどうなのか。例えば、東京に、市内在住型ですか。

○産業政策課長 住所条件はございません。市内の事業所あるいは企業、これに就職していただくということがあろうと思います。

○副委員長 ああ、そういう意味ですか。ぜひ考えてほしいのはですね、こういう予算が取れたからどうだっというような話っていうのは、今までも何十件もあるわけではなく、山のようにあるわけですね。その人が決断を

して、塩尻で働いてみようと、この仕事に傾注してですね、頑張り切ってみようと、その辺のプロセスを本当にもう一回考えてほしい。花火で終わるような予算の使い方っていうのはやめてほしいと思います。その辺、よく考えてほしい。

○産業政策課長 全くおっしゃるとおりでございます。今回もですね、私ども塩尻市に御縁を持っていただいて就労していただく、あるいは塩尻に住んでもらうというようなことが最終的な条件、最終的な目標でございますし、今回もその136名というKPIをクリアしませんが、事業を途中で打ち切られる。そういったリスクを背負っている事業でございます。ただ、私どももちょうど五次総がスタートいたしまして、今ブランドの発信をしておりますし、シティプロモーションもですね、一緒にやっておりますので、同時期にですね、単独ではなくてそちらのほうと連携して取り組んで、塩尻市に思いを持っていただいて、そういった優秀な方たちを何とか確保していきたいという形で、そういった思いで、私どもだけでなくですね、各連携を取りながらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○副委員長 じゃあ、このKPIがですね、KPIを設定するのはいいんだけど、今言われたように、実現できないと、といったようなリスクもかかっている。ちなみに、最終的な定住まで考えると、本当にいろんなことを考えると、できないわけです。そうすると、セミナーやって、何とか事業何とかと、いろんな今回の施策の中でやったとしても、何て言うんですかね、歩留まりっていうんですかね、実際にどれくらいの人に声かけて、どれくらいのことを。例えば、実際に事業を経験しても、もう一過性でいいよと、はい、さよならっていう方もきつというでしょう。その辺の歩留まりをどれくらいに見ているのか。136まで達成するにはですね、これ大変なことだと思うんですね。その辺、本当に実現可能な数値として上げているのかどうなのか。であれば、その前のプロセスをどんなふうプランして設計してるかというようなことが重要になると思います。きょう、どうこうということではないんですが、その辺をしっかりとトータルでサポートするような形に持って行っていただきたい。で、形にしていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

○委員長 ほかに。

○牧野直樹委員 3年間で1億7,000万円ですよ。これは国の全部予算が来るという仮定の中で、136人の目標人数だったときに、何かうまいエンジンでもぶら下げなきゃ、就職する人がいないじゃん。単費を出すようなそういう気持ちであって、どんどんこれをやってかないと。ただ国から1億7,000万来るで3年間使いたいっていうのと、俺は違うと思う。やり出したらだよ。やり出したら、市内にどんだけ魅力のある企業があるか知らないけど、そういうのも全面的に見つけ出して、観光でどうのこうのと言ってるけど、そんなに市内には観光どうのこうのって思っていないんで、塩尻市も。俺、一回も外へ出たことないんだけど、塩尻市の観光なんたって所詮しってるだけの分野で、それをそこらを見て滞在型にしていくたって、滞在型って、泊まるような、泊まってみたいような施設もないしさ。そんなことやってるんだったらさ、もうちょっと市のお金を出してさ、エンジンぶら下げて、塩尻はこうだから就職してくださいよとか、そういうのも考えていってもらいたいし、俺は単費出すには別に反対もしないし。国だけの予算でやろうなんて思ってもだめだ、課長。ちょっと派手に考えなきゃ。

それと、9人雇用するじゃん。2.5と3.5と事務局で3人。この人は、さっき村田委員が言ったように、もうちょっと市で単費を出したってお金くれなきゃ来ないよ、誰も。400万ばかで、俺だって行かぬわい。そ

こを、単費で出してもいい。こういう話。実は、そんだけ魅力あるものにしてかなきゃ、来る人だってやる気にならんじゃん。まあ、後は課長の意気込みだわ。どのくらい市に言って銭出してもらおうかっていうことだ。

○産業政策課長 この事業ですね、人材確保が一番のあれで大事ですからね。人材、優秀な人材と言ってますけど、それこそ人材がですね、いかに確保できるかっていうのが、この事業全体の成功かどうかにかかってくると思っております。他市の状況を見ますとですね、一旦、定年を迎えられて実績を残された方を採用しているというケースもございます。とりあえずと言いますか、現段階では、この予算が既に厚生労働省のほうからですね、単価的にも決められてきている予算でございます、これをふやすことは実質できませんので、それのとおりですね、含めてですね、まずこの単価の中でですね、人材確保を何とか最初にやらせていただきたいと思っておりますし、その中でですね、どうしても単費の流用といいますか、必要であるというような判断がされればですね、また御相談申し上げて対処していきたいと思っておりますので、とりあえずこの中で最初は何とか頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○委員長 よろしいでしょうか。ほかにありませんか。

ないので、自由討議を割愛いたしまして、討論を行います。ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○委員長 ないので、採決を行います。

議案第32号については、原案のとおり認めることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○委員長 異議なしと認め、議案第32号平成27年度塩尻市一般会計補正予算（第4号）歳出5款労働費については、全員一致をもって可決すべきものと決しました。

この際、挨拶があれば。

産業振興事業部長挨拶

○産業振興事業部長 慎重に審議いただきまして、大変ありがとうございました。今、多くの委員さんからも御指摘いただきましたように、今回はICTと観光産業が、観光協会の自立化ということも含めて行政課題であります。この厚労省事業で10分の10いただきながら、行政課題を片づけていきたいということで提案したところ、採択いただきました。それぞれ委員さんのほうからも強い檄をいただきましたので、この委託事業にとどまらずですね、地域の雇用を確保できるように、場合によっては単費ということも検討をしながら、この事業を進めてまいりたいと思っておりますので、また今後ともあわせてよろしくお願いたします。大変、本日はありがとうございました。

○委員長 以上をもちまして、9月定例会産業建設委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

午前11時59分 閉会

平成27年9月25日（金）

委員会条例第29条の規定に基づき、次のとおり署名する。

産業建設委員会委員長 金子 勝寿 印